

家庭科学学習指導案

授業 I

5 年 3 組 3 3 名 指導者 松田 華奈
坂中 律子

本授業は、以下の検証を行うものである。

2 学年間の食に関する学習の最初にガイダンス的な内容を取り扱い、その中で生活の営みに係る見方・考え方にふれることは、子供たちの「思いや願い」を温め、これから食に関する学習を頑張っていこうという意欲を高める手立てとして有効であったか。

1 題 材 はじめてみよう クッキング (B 日常の食事と調理の基礎)

2 目 標

日常の食事の大切さや調理に関心をもち、材料や目的に応じてゆで卵やゆで野菜の調理を行い、食生活をよりよくしようとする実践的な態度を育成することができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 日常よく使用される食品を用いた調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けている。	○ 日常よく使用される食品を用いた調理について考えたり、自分なりに工夫したりしている。	○ 調理に関心をもち、日常よく使用される食品を用いた調理をしようとしている。

4 題材について

(1) 題材について

本題材は、「B 日常の食事と調理の基礎」の(1)「食事の役割」と(3)「調理の基礎」との関連を図り、ゆで野菜サラダに視点を当て、ゆでる調理の知識及び技能を身に付け、食生活の課題を解決する力を養い、食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成することをねらいとしている。

子供たちはこれまでに体育科の健康によい生活に関する学習や、第 4 学年までの食育に関する学習において、食に関する学習をしている。ここでは、これまでに培ってきた食に関する知識を生かし、課題をもって、健康・安全で豊かな食生活に向けて考え、工夫する活動を通して、「ゆでる」調理ができるようにしたい。

この学習は、2 学期の題材「食べて元気に」、そして、6 年生の「いためてつくろう朝食のおかず」、「くふうしようおいしい食事」の学習につながるものである。さらには、中学校での「B 衣食住の生活」の学習へとつながっていく。中学校技術・家庭科との円滑な接続のために、理科や体育科などの教科や学校給食等との関連を考慮しながら、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っていくことができるようにしたい。

(2) 子供について

4 月の学校行事である開校記念遠行の際に自分でおにぎりをにぎったり、兄弟と協力をして家庭で調理を行ったりしている子供も見られるなど、本学級の子供たちの家庭科学習への関心は高い。さらに、「もっと他の料理をつくれるようになって、家族に喜んでもらいたい。」という思いや「一人で料理をつくれるようになりたい。」という願いをもっている子供も見られる。

そこで本題材では、食生活に関するアンケートを実施することで自分の生活を見つめ、課題を設定することができるようにする。身近な課題を設定することにより、子供たちがこの学習で身に付けた知識及び技能を使って、自分の食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成することができるようにする。

(3) 指導について

本題材では、ゆでる調理の知識及び技能を身に付け、課題解決を図り、自分の食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度の育成をねらいとしている。

そこで、導入では、生活の営みに係る見方・考え方についてふれるようにする。そうすることで、子供たちが 2 学年間の食に関する学習全体を通して、見方・考え方を働かせながら学習していくことができるようにする。展開では、卵と青菜、じゃがいもで、3 回のゆでる調理を行うことができるようにする。そうすることで子供たちの「思いや願い」が「成功体験」へとつながり、さらには、

調理への自信をもつことで、家庭実践へ向けて更なる「思いや願い」をもつことができるようにする。終末では、本題材で身に付けた知識及び技能を使って、自分の食生活の課題を解決するためにどのような工夫ができるかについて多角的に検討することができるようにする。そうすることで、子供たちが「成功体験」を十分に味わい、新たな「思いや願い」をもち、更なる家庭実践への意欲を高めていくことができるようにする。

5 指導計画（総時数 9 時間）

ア～ホ：重点化する「学習の基盤となる資質・能力」

過程	主な学習活動【評価規準】	時間	基盤となる資質・能力		
			言語	情報	問題
つかむ・見通す	1 自分の食生活を見つめ、2 学年間の食に関する学習の見通しをもち、なりたい自分の姿を考える。 【態： 食に関する学習に関心をもち、2 学年間の見通しをもち学習に取り組もうとしている。】	1 (本時)	ス		
	2 家庭科室のガスこんろを使って、湯を沸かす。 ゆでる調理を身に付けることで、食生活をよりよくするために、どんな工夫ができるだろうか。 【知： こんろの安全な取扱いができる。】	1		テ	
	3 調理の手順や調理器具について調べる。 【知： 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い方について理解している。】	1		テ	
	家庭で ゆでる調理について調べる。	課外			
調べる・確かめる	4 卵をゆでる。 【知： 卵のゆで方や、ゆで時間による違いについて理解している。】	1		ヌ	
	5 青菜とじゃがいもをゆでる。 【知： 材料に合った洗い方、ゆで方、切り方ができる。】	1		ノ	
	6 環境を考えて、後片付けをする。 【態： 環境に配慮した後片付けの仕方を理解し、実践している。】	1	オ		
生活に生かす	7 ゆで野菜サラダの調理計画を立てる。 【思： 材料に合った洗い方、切り方について考えたり、調理計画を自分なりに工夫したりしている。】	1			ホ
	8 調理をする。《一人実習（ペア調理）》 【知： 材料に合った洗い方、ゆで方、切り方ができる。】	1		ノ	
	9 環境を考えて、後片付けをする。そして、学習を振り返り、これから家庭で作ってみたいゆでる調理について考える。 【態： ゆで方に関心をもち、材料や目的に応じた調理をしようとしている。】	1	ヒ		
	家庭で 家庭で実践し、実践報告カードにまとめる。	課外			

6 本 時（1／9）

(1) 目 標

2 学年間の食に関する学習に見通しをもち、調理や日常の食事の大切さに気付き、よりよい食生活にするために工夫したいという意欲を高めることができるようにする。

(2) 評価規準

食に関する学習への関心や 2 学年間の見通しをもち、食に関する学習を通してなりたい自分の姿を思い描こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導に当たって

つかむ・見通す過程では、アンケートの結果を基に、自分たちの食生活における課題を確認する。そうすることで、身に付けた知識や技能を自分に必要な形で実生活に生かすことができるようにする。その際は、プライバシーには十分に配慮するようにする。さらに、本時が食に関する学習の第一次であるということから、野菜の実物を置いたり掲示を工夫したりするようにする。そうすることで、子供たちの食に関する学習への興味や関心、意欲が高まるようにしたい。

調べる・確かめる過程では、「おいしい」という言葉について深く掘り下げていく活動を行う。そうすることで、子供たち自身が食に関しても様々な見方・考え方があるということに気付くことができるようにする。

生活に生かす過程では、本時で新たに学習した食に関する見方・考え方の視点を取り入れ、「思いや願い」が深まった児童の振り返りを共有することができるようにする。そうすることで、多くの子供たちの「思いや願い」が深まり、食に関する学習の家庭実践への意欲が高まるようにする。

(4) 本時の展開

〔 〕 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	7	1 アンケートの結果から「思いや願い」を知る。 〔・ 自分で料理をつくりたいな。 ・ おいしい料理をつくれるようになって、家族に喜んでもらいたいな。〕 2 本時のめあてを確認する。 食について学習することで、どんなことができるようになりたいだろうか。 3 学習の進め方に見通しをもつ。 〔・ まずは、食についての学習で、どんなことを学ぶのかを知りたいな。〕	○ 事前アンケートの「何ができるようになりたいか」という子供たちの「思いや願い」を全体で共有することで、自分の身近なところから、本時に対する意欲を高めることができるようにする。 ○ アンケート結果に書かれた、子供たちの食の課題にもふれることで、課題を解決するために学びたいという意欲を高めることができるようにする。 ○ パワーポイントを使い、これまでの子供たちの調理の様子や教科書の挿絵などを紹介することで、興味や関心を高めることができるようにする。
調べる	31	4 2学年間の食に関する学習の内容を知る。 〔・ ご飯は炊飯器でなくても炊くことができるんだ。なんだか楽しそう。〕 5 「おいしい」とはどういうことなのかについて考えることで、食に関する学習における見方・考え方を知る。 (1) 一人で検討する。 〔・ 「おいしい」は、料理を食べたときに感じる気持ちだと思うな。〕 (2) グループで検討する。 〔・ 好きな物ばかり食べていても、健康によくなさそうだもんね。 ・ おいしい料理でも、出てくるまでに時間がかかりすぎたら、おいしいという気持ちも減りそうだな。〕 (3) 全体で検討し、栄養教諭の補説を聞く。 〔・ 一人でつくるご飯もおいしいけれど、家の人と一緒につくったら、おいしさが倍になるよね。 ・ 給食と同じように、調理実習では手際よさや時間を守ることも大切になってくるんだね。〕	○ 教室内に2学年間の食に関する学習の展示を行い、その中にキーワードを散りばめておく。そうすることで、子供たちが「おいしい」とはどういうことなのかについて考える際の参考にしたたり、食に関する学習への意欲を高めたりするための手立てとなるようにする。 ○ グループでの交流を行うことで、様々な視点で食について考えることができるようにする。 ⑤ グループでの話し合いや全体での共有を行うことで、多様な友達の考えにふれて、自分の考えに効果的に反映させていくことができるようにする。 ○ 栄養教諭から、給食という身近な食についての話を聞くことで、「おいしい」には、自分たちが思いつかなかった要素も含まれているのだということを知ることができるようにする。 ※ 食に関する学習に関心をもち、2学年間の見通しをもち、食に関する学習を通じてなりたいたい自分の姿を思い描こうとしている。(発言・ワークシート)
まとめる・生かす	7	6 本時のまとめをする。 ぼく(わたし)は、食についての学習をすることで、○○ができるようになり、～をしたいと思います。 7 本時を振り返る。 〔・ ぼくは、ご飯を炊く学習が楽しみな。宿泊学習でも生かせそうだ。 ・ 私は、早くいためる調理について学習して、家族に朝ご飯をつくってあげられるようになって喜んでもらいたいな。〕	【主体的に学習に取り組む態度】 ○ 「P」「M」「N」の三つの視点から本時の振り返りを行うことにより、更なる「思いや願い」をもち、次時への意欲が高まるようにする。 ○ アンケートの記述時よりさらに「思いや願い」が高まっている子供のまとめや振り返りを紹介することで、学級全体の食に関する学習に対する意欲が高まるようにする。